

# 火災

## 発災直後 アクションカード

管理者・主任の指示があるまで、あなたがリーダーです  
まずは落ち着いて、自身の安全確保を行いましょう

### ◆◆◆デフォルトルール◆◆◆ 自らの安全確保が最優先

出火に居合わせたら、「通報」「初期消火」「避難」の順に行動する

通報	初期消火	避難
<input type="checkbox"/> 自身の安全確保	<input type="checkbox"/> 火が横に広がっているうなら消火は可能	<input type="checkbox"/> 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を遮断
<input type="checkbox"/> 「火事だ！」と大声で叫び、隣近所に知らせる	<input type="checkbox"/> もし炎が天井に燃え移ったら、初期消火を中断し、すぐに避難	<input type="checkbox"/> 同居の家族、近隣のサポートを得ながら利用者の避難支援をする
<input type="checkbox"/> 声が出ない場合は、音の出る物を叩くなどして異変を知らせる		<input type="checkbox"/> 消防隊(プロ)に救出を依頼するために、自分が先に外に出ることも重要
<input type="checkbox"/> 近くの人に通報を頼む (小さな火でも119番に通報する)		<input type="checkbox"/> 利用者の服装などにこだわらず、できるだけ早く避難する
		<input type="checkbox"/> 煙の中を逃げるときは、できるだけ姿勢を低くする
		<input type="checkbox"/> いったん外に避難したら、再び中には戻らない
		<input type="checkbox"/> 逃げ遅れた人がいたら、消防隊にすぐ知らせる

### ◆◆◆消火器の使い方◆◆◆

- 安全ピンを上強く引き抜く
- ホースのノズルを持ち、火元に向ける
- レバーを強く握って噴射する

- 出入り口を背後にして、避難路を確保する
- 姿勢を低くし、煙を吸い込まないようにする
- 炎ではなく、火元を掃くように左右にふる
- ホースが強く振られるので、ノズルをしっかり握る
- 消火器の薬剤は全て出し切る
- 粉末消火剤の場合、必ず消火を確認する

### ◆◆◆火元別の消火方法◆◆◆

◆ コンロ	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 油なべの場合、水をかけのは厳禁。</li> <li><input type="checkbox"/> 粉末消火器 → なべの全面を覆うように噴射</li> <li><input type="checkbox"/> 強化液消火器 → なべのふちに向け噴射</li> <li><input type="checkbox"/> 消火器がない場合 → ぬらしたシーツやバスタオルを手前からかぶせ、空気を遮断</li> </ul>
◆ ストープ	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 消火器は直接火元に向けて噴射する</li> <li><input type="checkbox"/> 石油ストーブの場合 → 粉末消火器を使う</li> <li><input type="checkbox"/> 消火器がない場合 → 水にぬらした毛布などを手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断</li> </ul>
◆ 電気器具	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> コンセントかブレーカーを切り、粉末消火器で消火</li> <li><input type="checkbox"/> 泡消火器は、感電のおそれがあるので使用しない</li> <li><input type="checkbox"/> いきなり水をかけると感電のおそれがある</li> </ul>
◆ カーテン・ふすま・障子	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> カーテンなどは上に燃え広がる前の対処が重要</li> <li><input type="checkbox"/> 火がついたら、引きちぎってから消火</li> <li><input type="checkbox"/> ふすまや障子などはけり倒し、足で踏んで消した後、水をしっかりかけて消火</li> </ul>

### ◆◆◆一酸化炭素中毒を予防◆◆◆

- ぬらしたタオルやハンカチなどで、口と鼻をおおう
- できるだけ姿勢を低くする
- 短い距離なら、息をとめて一気に走り抜ける
- 視界が悪いときは、壁づたいに避難する